

令和5年度「市長と語り合う会」について（益田地区）

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
令和5年 7月3日（月）	益田公民館	19:00～20:00	17	3	20

- 市側出席者
市長、副市長、政策企画局長、総務部長、秘書課長

2 会の概要

- 開 会（秘書課長）
 - ・ 会の趣旨説明
 - ・ 出席者紹介
- あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 令和5年度 施政方針の考え方

・ウィズコロナからアフターコロナへ

新型コロナウイルス感染症はまだ続いているが、5月8日から感染法上の位置づけが5類になり、インフルエンザと同じ扱いになった。経済を回していくことも大事なので、感染状況等見ながら取り組んでいきたいと考えている。7月末頃から、まずは経済応援券という商品券を発行することとしており、地元の商工業の発展につなげていきたい。

・持続可能な未来都市の実現

地球温暖化が大きな問題となっており、また、コロナによる感染症も大変な問題となった。市の財政状況も厳しい状況である。そういう中で、今後、地域や行政が持続維持していけるようなやり方、その一つとして新しい技術を取り入れ進めていくよう考えている。市においては、共用車のうち1台を電気自動車に変えたところであり、今後も環境にやさしい自動車の利用を進めていきたい。また、AIの技術も有効に活用していきたい。本年度から、亡くなられた際の手続きを、出来るだけ1カ所で済むようにする「おくやみ手続サポートサービス」を実施している。今後も市民サービスの向上と行政手続きの効率化を、新しい技術を使って進めていきたいと考えている。

2. 令和5年は様々な節目の年

・JR益田駅開業100周年

大正12年4月1日にJR益田駅が完成した。この時に山口線が益田駅につながり、全線開通したのが今から100年前である。その年の秋には、山陰本線も東から益田駅までつながり、益田駅が山陰本線の停車駅となった年でもあり、市内の鉄道の状況が大きく変わった時期だった。

JRについては、人口減少とコロナ等により利用者が減り、経営状況が厳しくなり、中国地方でも鉄道の廃止の話が出てきている。しかし、鉄道は、通学や高齢者の移動には欠かせないので、今後JRの利用拡大を進めていきたいと考えている。

・萩・石見空港開港30周年

空港についても、今年が開港30周年の年になる。昨日30周年を祝うイベント、式典が行われた。空港が有効に活用されるためには、便の充実が重要である。東京線については、今年の春に2往復運航が令和7年3月まで継続されることが決まった。その後も2往復運航が継続していくよう、さらに利用拡大を進めていきたい。大阪線については、8月11日から15日までの5日間だけの運行だが、今年も季節運航が行われることとなった。搭乗率100パーセントを目指して行っていきたい。

・柿本人麿没後1300年

今年、柿本人麿の没後1300年に当たる。地域住民を中心とした実行委員会では、記念したイベントも計画されている。益田の誇る文化の大きな柱なので、しっかりと盛り上げていきたいと考えている。

歴史文化については、当益田地区は市内の中でも中心である。4月1日に歴史文化交流館がオープンし、先般、愛称が「れきしーな」に決まった。益田の歴史文化では、日本遺産を活かしていく事が重要であり、中心である益田地区の皆様には、引き続き歴史文化の発信の取り組みについてご協力をお願いする。

○ 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は別紙のとおり。

- ① 史跡整備について
- ② 歴史文化交流館駐車場の整備について (1) (2)
- ③ 持続可能な未来都市の実現について (1) (2) (3)
- ④ 益田川堤防の草刈りについて
- ⑤ 草の処理について
- ⑥ 国指定の史跡について
- ⑦ ひとまるビジョンについて
- ⑧ 地域活動に対する支援等について
- ⑨ 益田氏を見直す活動について (報告)
- ⑩ 庁舎の改修について

○ 閉 会 (秘書課長)

令和5年度「市長と語り合う会」

〔会場 益田公民館 開催日時：令和5年7月3日（月）19:00～20:00〕

要 望 事 項 等	回 答
<p>① 史跡整備について 益田地区全体が博物館となるような、ワールドミュージアムを行うことを言われていたが、その中で特に今からは、三宅御土居と七尾城の整備を一刻も早く行い、目に見える形で示してほしい。</p>	<p>① 国の史跡に指定され活用していく計画もできているが、その財源を確保していく必要があるため、出来るだけ早く進むように努力していきたい。</p>
<p>② 歴史文化交流館駐車場の整備について (1) 現在の公民館を解体し駐車場の整備を行うにあたり、現在教育委員会と協議中であるが、敷地内にある樹齢120年から130年位になるハリエンジュ（ニセアカシア）の木が、整備の支障となると言われている。来週11日に意見交換を行う予定だが、地元の心がこもった木であるため慎重に対応してほしい。</p>	<p>② ニセアカシアの木については、深い思い入れをお持ちだと、意見を伺い改めて痛感した。駐車場として活用するためには、除けていただく事で考えていたが、開発整備は、地元の方々のご理解を頂かない限りは進められないものなので、ご意見を尊重して進めるよう教育委員会へ伝えたい。</p>
<p>② 歴史文化交流館駐車場の整備について (2) この老木に対してすごく愛着を持っている。その人でなければ分からない思い出等、100年にわたり記憶に残っている木なので、駐車場の整備のために伐るということは、それぞれの思い出も切られるということで甚だ残念である。大切なものは何かということで一考を願う。</p>	
<p>③ 持続可能な未来都市の実現について (1) 持続可能な未来都市の実現とは、どのように進めていくのか。</p>	<p>③ (1) 一つは新しい技術を活用して行く事である。特にITの技術を使って市民サービスの効率化を図って。また、行政の事務処理の効率化も図り、最終的には、市民サービスに繋げていきたい。環境の面では、地球温暖化の一番の原因と言われている二酸化炭素の排出量を減らす取り組みを、市民と一緒にやっていく事に力を入れていきたい。 もう一つは、行政運営を持続可能にするには、財政が大きな要因になる。歳出を減らし歳入を増やすことにより未来永劫、市の運営が続けられるよう計画的に行っていく。</p>
<p>③ 持続可能な未来都市の実現について (2) 行政運営を持続可能にする財源は、どのように確保するのか。</p>	<p>③ (2) 主な歳入について、財源の基本である自主財源については、産業振興を進め市内の事業者が儲かるような支援を行い、それが働く方へ繋がることで税収入を増やしていきたい。依存財源については、国や県の施策の方向性を見極め、市に必要なことを合わせていきたい。また、ふるさと納税については、返礼品を工夫したり魅力ある事業を構築、発信して増やしていきたい。 歳出については、優先度の高いものを主にして、低いものは減らすか若しくは先送りし、メリハリをつけ歳出を抑えていきたい。</p>

③ 持続可能な未来都市の実現について (3)
人口減少により人手が減り産業界も厳しい状況である。観光都市として人を呼び込むことで雇用も維持でき、財政もよくなると思うので、明るい未来に向け取り組んでほしい。

④ 益田川堤防の草刈りについて
一番困っているのは、益田川堤防の草刈りである。提案だが、市の現業職員で草刈班を作って堤防の草刈りをさせていただき、後日、刈った草を地域の方が何か所かに集め、それを職員がパッカー車で収集するという事はできないものか。

⑤ 草の処理について
市は、草の適切な処理をと言われるが、かなりの量があり困難である。その辺りも含め検討してほしい。

⑥ 国指定の史跡について
国の史跡に指定されている土地については、大幅な制限がかかっている。当時国指定について同意したが、それから25年が経過している。進捗があまりにも遅いのではないか。その間、制限により、構造物の新設が不可であったり基礎をはぐることもできず、家は老朽化し、雨漏りや溝が割れたりした。どうにか25年待ってきたがもう限界である。制限があるため転売もできず、修繕費ばかり嵩む。平成30年頃に行政相談員や文化財課へ相談したが、それから今まで何の連絡もない。せめて、年1回は地区の方に状況報告等の説明会をしてほしい。4年前に相談した時、七尾地区の移転については、計画通りなら15年後と言われたが、あと10年で確実にやるという認識でいいのか。出来ないのなら一刻も早く制限を解除してほしい。国の史跡にする事態はいい事と思うが、何もできない状態で地元の人が苦しんでいるので、良い策を早めに考えてほしい。この問題を自分らの世代で解決し子供達に残したくない。

⑦ ひとまるビジョンについて
ひとまるビジョンの加入率が旧益田市では25%位である。あれだけ取材をしていい番組を制作しているのもったいないと感じる。値段を下げるか、もしくは別の方法で見られるようにするか、できればインターネットで流した方がコスト的には安いのではないかと思う。

③ (3) 歴史文化や景観等観光資源はあるので、その情報を発信し、関係団体と連携し官民一体となり観光振興を進めていきたい。

④ 草刈り、清掃等の地域の美化については、住民の皆様のご協力により進められてきている。美化活動に対する委託料が少ないという声もあるが、人手が無くてできないという意見も伺っている。今言われたことも選択肢の一つであると思うが、コストの検討も必要である。今後、中山間地域振興基本計画を作ることとしており、地域の美化活動についても検討していきたい。

⑤ 草の処理も含め、いろんな方向から検討したい。

⑥ 当初の説明や計画について、大幅に遅れている事、また遅れている状況の説明が十分にされていない事に対して申し訳ないと思っている。まず、定期的に説明会を開き状況を報告することについては、当然のご意見なので、教育委員会へ要請したい。また、10年後に実行できるのかどうか、それが難しいようであれば制限の解除をという要請であるが、これについても、何らかの解決策をお示しできるように、教育委員会と十分に協議し急いで解決策をお示ししたい。

⑦ 総務省の補助事業で整備したもので、特に旧益田市内で加入率が少ないのはもったいない。事業効果が上がるよう、また市民の皆様にご利用いただけるよう進めていく事は、ひとまるビジョンだけでなく、行政にとっても重要な課題と考える。事業者とも話をし、市民の皆様にご協力いただけるよう取り組みたい。

⑧ 地域活動に対する支援等について
公民館の裏の河原にも蛍がいる。蛍を増やす事を考えているが、そういった取り組みに市の支援等があるのか。

⑨ 益田氏を見直す活動について（報告）
益田藤兼の墓を整備し、それに合わせ益田氏の17代の親方を見直すこととしている。それぞれの時代に誰がどう関わりどうなったのか等、その時代の頭主にスポットを当て、それから益田の日本遺産を見直すことができればもっと益田の歴史がわかりやすくなると思っている。そういった活動をしていくので、ご協力をお願いします。

⑩ 庁舎の改修について
市の庁舎を16億円かけて改修したが、県内8市の内7市が新しくした。あと5年したら70年になりコンクリートはボロボロになる。庁舎は持つのか。コンクリートは70年持たないと学術でいわれている。600人いる職員が安心して働けるのか。

⑧ 市では、地域の活動に対しての補助制度があるので、こういった事で支援ができるのか、地元の皆様とお話できればと思う。公民館を通して具体的に協議していきたい。

⑩ 市役所庁舎の耐震化については、建て替えか耐震補強の手段を検討し、当面の財政状況を見たときに、耐震化で長寿命化を図ることにした。正確に、耐震化した場合あと何年持たせられるのか今記憶していないが、あと4、5年ということはない。建物の耐震化の耐用年数を見計らい、遅れることのないように、次の計画を考えていく。いろいろなやり方があるが、その時が来ればしかるべき判断をするという事である。